

道路13 旧国道11号観光道路(香川県)

No.	資料名	ストック効果に関する記述
香川1	50年史編纂委員会編「香川工事事務所50年のあゆみ」(四国建設弘済会、1984年)、2頁	屋島観光道路 (中略) 本事業はきびしい社会情勢のなかではあったが、幸いにして途中で打ち切られることもなく事業着手4年後の13年に完成し、これにより高松屋島間の交通が飛躍的に改善された。
香川47	高松百年史編集室編「高松百年史 上巻」(高松市、1988年)、515頁	観光道路 また、昭和十年には、高松－屋島間の国道二二号のコンクリート舗装が着工された。観光道路と呼ばれ、車による屋島・八栗への通行を至便にした。こうして、昭和初期には、高松を中心とした観光用の交通機関や施設が急速に普及し、観光客も増加していった。
香川135	国土交通省香川河川国道事務所編「道路グラフィティー観光道路はこうして作られたー」(国土交通省香川河川国道事務所、2001年)、60-61頁	観光道路に思うこと (中略) 観光道路という名前は、天下の名園である栗林公園と風光明媚な景勝地である屋島をその起点と終点にもつことによって触発されたものかもしれませんが、それだけに止まることなく、地元香川にあっては、観光博覧会の開催をはじめ、道にその名前を付けたように観光開発に、鋭意、力を注いできたという事実も忘れてはいけないと思います。 (中略)道にもそれに相応しい名前を付けること、これは健全な住民意識のあらわれなのです。それぞれの道に自らの関わりをもつことは、望ましいことなのです。何もひとつの名前に拘ることはないですよ。ペンネームがあってもいい、愛称があってもよいのですよ。そうだとすれば、早くから観光道路という素晴らしい名前を付けたことは、決定的に重要な意味があるわけです。そのような先人の見識を誇りとし、大切に受け止めて欲しいのです。その意味でも、温故知新と言えるのでしょうか、なぜに観光道路という名前が誕生したのか、その歴史をたどり、由来を学び、また、その真意を後世に語り継ぐことがわれわれの責務ではないでしょうか。(香川大学経済学部教授 井原健雄 談)